

もっと安心農産物 セロリー栽培暦 (令和5年)

J A安房 館山有機會

1. 土づくり

<ul style="list-style-type: none"> <li>完熟堆肥を施用する (土壌還元消毒実施の場合は、堆肥は施用しない)</li> </ul>
---

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守

	肥料名	施肥量	
基肥	有機配合 (6-6-0 有機態 N6)	500 kg	
	LPコート (N42)	60 kg	
	菜種粕	400 kg	

3. 防除

月	管理作業	病虫害の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病虫害	備考 (耕種的防除の実施等)
8月上旬	は種		土壌消毒と土づくりを兼ねて、土壌還元消毒を実施する			○害虫防除のため、ハウス開口部を寒冷抄等で覆う
中旬						
下旬						
9月上旬	移植		トップジンM水和剤 (予)	1500 倍	斑点病	○病害を減らすため、育苗ポットの配置間隔を拡げ通気をよくする ○ヨトウムシの発生がある場合は、ランネート 45DF1000 倍を散布する ※但し、ハウス上部を剥がした時のみ
中旬			カスケード乳剤	4000 倍	マメハモグリバエ	○ハモグリバエ・アブラムシ発生源となるハウス周辺の除草を実施する
下旬			軟腐病			
10月上旬	定植		アクタラ粒剤5	2g/株	ハモグリバエ	○アブラムシの発生がある場合は、アトマイーフフロアブル 4000 倍を散布する または、モスピラン顆粒水溶剤 4000 倍を散布する
中旬			ダエール 1000 (予)	1000 倍	斑点病	○芯やけした枯死部位から菌核病が感染しやすくなるので注意する ○斑点病の発生が多い場合は、アミスター20フロアブル 2000 倍を散布する。
下旬			アフターム乳剤	2000 倍	ハモグリバエ	
11月上旬	菌核病		コテツフロアブル	2000 倍	ヨトウムシ	○ヨトウムシ・ハモグリバエが多い場合はアフターム乳剤、カスケード乳剤を散布する
中旬			Zボルドー (予)	500 倍	腐病病	○ハモグリバエの発生が多い場合は トリガード液剤 1000 倍を散布する
下旬			アフターム乳剤	2000 倍	マメハモグリバエ	
12月上旬	収穫		アミスター20フロアブル (治)	2000 倍	斑点病	○ナガジ防除にはスラゴを使用する
中旬						
下旬			アミスター20フロアブル (治)	2000 倍	斑点病	
1月上旬中旬						
下旬						

☆みんなで守ろう生産基準